資料：日光自然博物館からのメッセージ

すばらしい日光国立公園の自然

栃木県，福島県，群馬県にまたがる日光国立公園は，北から那須，塩原，鬼怒川，日光といくつかの地区に分かれ，那須火山帯に属する日光白根山，男体山など2,000mを超える火山群と，この間に点在する戦場ヶ原や小田代原などの湿原，中禅寺湖や切込湖・刈込湖などの湖沼，さらに，華厳滝に代表される瀑布などを中心とした我が国を代表する自然と，世界遺産にも登録された東照宮，輪王寺など神社仏閣をはじめとする数々の歴史的建造物のすぐれた人工美がたくみに調和し，日本的風景を併せ持つ国立公園となっています。

また，貴重な高山植物，湿原特有の動植物が見られ，山麓に広がる高原を覆う原始性の高い亜高山性針葉樹林やミズナラ林などの森林や山麓を中心とした動物相にも恵まれ，大型哺乳類のほか，鳥類，昆虫類も種類，量ともに豊富です。

日光国立公園は首都圏から近く，古くからの温泉も多いこともあり，外国人観光客を含めて多くの観光客が訪れます。神社仏閣も人気のスポットですが，登山，ハイキング，釣り，キャンプなど自然と深くふれあう場としても絶好の地といえます。

奥日光の自然と「特別保護地区」

日光国立公園内の奥日光は，標高1269（中禅寺湖周辺）～2578m（日光白根山）までの高地のため，気温は夏でも30℃を越えず，冬は零下20℃近くまで下がる寒冷地であり，他の地域とは違った独自の生態系があります。

ツキノワグマやニホンジカ，ニホンザルなど大型哺乳類が生息し，野鳥も180種類以上の記録が残るほどで，バードウォッチングの名所として全国的にも有名です。これらの野生生物が生息できるということは，それを支える植生をはじめとする多様な生態系が残っているということです。

日光地域には年間約558万人（平成24年）もの観光客が訪れ，そのうちの何割かの人が奥日光にも足を運びます。しかし，特別な料金所やゲートがあるわけではなく，奥日光のほぼ全域が自然公園法の定める「特別地域」であり，「戦場ヶ原」や「小田代原」などの湿原をはじめ，華厳滝や日光白根山などが最も規制の厳しい「特別保護地区」に指定されていることはあまり意識されていません。

厳しい気候のなか精一杯生きている動植物は，私たちの想像以上に人間による影響を受けるものです。特別保護地区では，自然を敬う気持ちを皆さんに持って欲しいと思います。規制されているから動物を驚かさない，植物を傷つけないということだけではなく，土や砂，枯れ葉や枯れ枝までが生態系の一部であることを感じ取って欲しいと思います。